

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	山下典子（やました のりこ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	人間科学研究科 修士 1 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本音響学会第 154 回（2025 秋季）研究発表会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	山下典子、菊池浩史、菊池英明
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	プレゼンテーションにおける文頭プロミネンス指導による聞き手関心評価向上
発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。） ◆ボイストレーニングの現場では、量的なエビデンスに基づいた指導方法の確立が望まれている。そこで本研究では、プレゼンテーション指導において、文頭の F0 高低差に着目し、文頭にプロミネンスを実現させる話し方をすると、聞き手の関心が高められるかを検証した。 ◆実験は、文頭の F0 高低差を加工したプロミネンスあり音声となし音声を刺激として用い、聞き手関心評価実験を実施した。 ◆分析は、対応のある t 検定を行った。帰無仮説は「プロミネンスあり音声の聞き手関心評価は、なし音声と同等か低い」対立仮説は「プロミネンスあり音声の聞き手関心評価は、なし音声より高い」とした。 ◆結果は、p 値 0.0174 で有意水準 0.05 を下回ったため、帰無仮説を棄却し、対立仮説を採択した。つまり、文頭のプロミネンスが聞き手の関心評価を高めることが示唆された。	

※無断転載禁止